

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ゆず本山ルーム		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 10日		2025年 3月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2025年 2月 10日		2025年 3月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○訪問先施設評価実施期間	2025年 2月 20日		2025年 3月 10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	12	(回答数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の方の気持ちや日々の困りごとに丁寧に耳を傾け、寄り添った支援ができています。家庭での様子をしっかりと受け止めたうえで、支援に反映させることで、信頼関係の構築にもつながっている。	お子さんの様子について、「どこで困っているのか」「どんな強みがあるのか」を丁寧に見て捉えることを意識している。また、保護者との相談の時間を意識的に設けることで、共有と理解を深めている。	聞き取りや説明のタイミングがより適切になるよう工夫を重ねていく。あわせて、子どもの評価力をさらに高め、支援内容の質を向上させることを目指す。
2	保護者と学校・園との関係がより良いものになることを目指し、支援の一環としてその連携づくりにも力を入れている。お子さんの安心と成長のために、家庭と現場のつながりを大切にしている。	間接的な支援の場面でも、訪問先の先生方の立場を尊重しつつ、お子さんに必要な支援内容について丁寧に共有することを意識している。伝え方やタイミングにも配慮し、信頼関係を築けるよう努めている。	訪問の際には「なぜ支援に入るのか」「どのように関わるのか」など、支援の目的や方法をより明確に伝えることを心がけ、訪問先との連携をさらに深めていく。

3	丁寧で専門的な視点に基づいた支援を提供することで、訪問先や保護者からの信頼につながっている。お子さんの個別の課題や特性を的確に捉えた支援が実践できている。	報連相をこまめに行い、支援中に得られた情報が関係者間でしっかりと共有されるようにしている。また、訪問記録を丁寧に記載することで、お子さんの様子や支援内容を保護者にもわかりやすく伝える工夫をしている。	目の前の課題への対応だけでなく、支援に関わるすべての人が共通の理解を持つことで、長期的な発達支援や生活の質の向上につながる仕組みづくりが必要である。共有の精度を高めるための方法を今後も検討していきたい。
---	---	---	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先との情報共有や報告・連絡・相談において、タイミングや手段によっては情報の漏れや伝達ミスが生じる場合がある。情報共有が不十分な場面では、支援の一貫性に影響が出ることがある。	記録や報告の仕組みが十分に整っておらず、訪問支援員個人に情報が集まりやすい状況がある。結果として、支援の全体像が他の職員に伝わらず、情報が分散したままになってしまう。	支援の記録を共通フォーマットで残すことや、チーム内での簡単な共有ミーティングの機会を設けるなど、情報の見える化を進めていく。誰が担当しても支援の内容が把握できる状態を目指す。
2	訪問支援員と訪問先の先生との間で、支援の目的や関わり方についての共通認識にずれが生じることがある。その結果、支援の意図がうまく伝わらず、実践にずれ違いが生まれる場合がある。	訪問支援開始時の説明や初期の情報提供が不十分なまま進んでしまうケースがあり、訪問先が支援の全体像を把握しきれないことがある。情報の伝え方やタイミングに課題が残っている。	発達支援ゆずとしての訪問支援の目的や方針をスタッフ間でしっかりと共有し、どの職員が訪問しても一貫した説明ができるようにしていく。訪問先の先生方にも丁寧に伝えることを心がけ、相互理解を深めていきたい。
3	訪問支援員それぞれの考え方や判断が先行してしまい、事業所内での情報共有や意思疎通がうまくいかず、連携が取りづらくなる場合がある。特に他職種間での認識のずれが課題となる場合がある。	支援に関する共通の仕組みや連携体制が十分に整っておらず、担当者ごとに支援の捉え方や進め方にばらつきが生じている。結果として、支援内容や関係性の築き方に一貫性が欠けてしまうことがある。	発達支援ゆずの訪問支援における目的や理念、支援の基本的な方針について、支援員全体で定期的に確認・共有していくことが必要である。共通認識を持つことで、ぶれのない支援体制を築いていく。